

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人宮城福祉会		
事業所名	グループホームうぐいすの里こもれびの家	ユニット名	なでしこ
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設周辺には鶯沢診療所、学校(小学校・幼稚園・保育園)、鶯沢支所があり、医療と教育と福祉が一体化した環境になっている。コロナ感染対策の為、定期的に行なわれていた交流会や地区行事も中止になるも、幼稚園から子ども達の声が聞こえたり、散歩する子ども達の姿を居室や縁側から眺めたりできる環境である。施設内でできるレクリエーション活動を試行錯誤しながら行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 21 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、東北自動車道築館ICから車で20分程の旧鶯沢町内の集落の一角にあり、広々とした田園地帯に隣接し自然環境に恵まれている。敷地内に法人の特養やケアハウスが併設されている。職員は入居者と笑顔で過ごし、「ご飯だよ」と家族的な雰囲気を作っている。診療所がすぐ近くにあり、散歩がてら受診出来、医療面で安心感がある。保育園や小学校との交流が続いており、園児や児童が来訪し歌や太鼓など披露している。目標達成計画の職員の身体拘束廃止に関する意識の向上は、勉強会の開催や身体拘束廃止委員会での振り返り、職員同士の話し合いが成されており達成している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 うぐいすの里こもれびの家 )「ユニット名 なでしこ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える所に提示している。確認する時間や振り返り(スタッフハンドブック)を行っている。	法人の理念を基に、ユニット毎に目標を作っている。振り返りは年度初めに行っている。職員は笑顔で挨拶し入居者も笑顔で応え、会話の頻度が増えた。声がけする時は、肩をそっと叩くなどスキンシップしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度は、だいが規制が緩和されたこともあり、地域の行事を見学したり、小学校・幼稚園に來所していただき、太鼓や踊りを披露してもらった。	ホームの秋祭りに保育園児や小学校の児童が来訪し、歌や踊り太鼓等を披露し、入居者を楽しませた。ボランティアがホーム周りの雑草を刈っている。地域包括主催の地域推進委員会に管理者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為、交流会等の参加機会は無い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、集まっての会議は行わず資料配布のみとしている。感染状況を見ながら対面での開催を検討している。	メンバーに会議資料を手渡しで届けている。年6回の書面開催となっている。意見や要望はFAXで貰っている。今年11月、4年ぶりに対面での会議を開いた。会議での活発な意見、活用を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話でのやり取りもあり事務手続きについても教えて頂いている。包括支援センターからの利用者様の紹介等で協力を頂いている。	市の担当者に介護保険認定更新の申請や外国人を職員採用し、住まいについて相談した。秋祭りに使う炊き出し用の鍋を借用した。地域包括主催の成年後見制度や身体拘束廃止の研修会に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス時に身体拘束廃止の取り組みを確認、状況確認、防止対策検討を行っている。	毎月ユニット毎に虐待・身体拘束廃止委員会を開催している。「身体拘束の種類と範囲」をチェックリストで確認している。立ち上がりの不安定な入居者には、人感センサーやセンサーマットで転倒防止を図っている。外出傾向の方を見守りし、思いを傾聴している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリストを使い話し合いの場を設けたり、リーフレットを読んだりしている。	年1回勉強会を行い、毎月「高齢者虐待5つの行為」のチェックをしている。入居者へ向けて大声があった際は、職員間で注意し合っている。管理者と年2回の面談をし、いつでも相談出来るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為、研修への参加はできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語は使わず、分かりやすい言葉で説明を行い、施設内の支援と援助についてもご家族様に状況説明を行い同意いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には2か月に1回の広報誌や手紙を通じ日中の様子を伝え、電話にて意見を聞く機会を作っている。	入居者が種から育てたブドウが実ったと、家族が持参して皆で頂いた。入居者が昔編んだセーターを着せようと、持ってきてくれた。本人の実家を見せたいと、子供達が連れて行き、お墓参りをした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時に職員の希望や悩みを伝えている。また、定期的に面談を開いている。普段の会話の中でも相談している。	職員は自由に意見を述べている。脱衣所の椅子を職員の要望で肘掛椅子に替えた。ホーム周りの草刈りやユニット間の通路整備、職員増等の要望がある。資格取得は法人が助成し、研修参加は勤務扱いである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長と面談を行なってい、職員の要望や悩みを聞いている。また、正規職員への試験を年一回本部で行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部研修へは参加できていないが、法人内で研修部主催の研修会に参加する(オンライン含む)などしている。また、法人で資格取得研修の機会を設けている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の特養やグループホームの管理者等に電話で相談したり、相談されたりといった繋がりを持っている。	栗原市立栗原中央病院主催の感染症予防や薬の服用等の研修会に参加している。地域包括の研修会や懇談会が再開した。法人内の研修会等で職員同士がコロナ感染対応や職員の補充など、情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の際や実態調査に伺った際にご本人様より施設への不安や要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に対しても同様に不安や要望を聞く機会を設け、安心していただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の他、ケアマネに連絡を取り合い、情報を頂き支援が出来る様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスや各種研修の機会に、本人と暮らしを共にする意識の向上に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や広報誌を出して日常生活や状態を報告している。必要に応じて電話連絡を行い希望等を聞けるような体制を作っている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会中止、制限があった際にも窓越しや電話で家族との繋がりが出来ている。国際電話が定期的にかかってくる方もいる。	家族や友人の他、昔すし屋で一緒に働いた弟子が面会に来ている。近所の店の方が菓子類を毎週移動販売に来て、入居者が喜んで買い求めている。近所の床屋が入居者の希望に応じて来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性等を考慮し食堂の席を考えている。テレビを観たりレクを行なう際も考慮し穏やかに過ごせるように支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退所になっても面会に行ったり、ご家族様の状況によっては洗濯物や必要な物の購入を行い関係が続けている。次の利用先も一緒に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望に沿った支援を行なっているが、希望の伝えられないご利用者様にはついでにご家族様に相談し支援を行なっている。	普段の会話の中で入居者の思いや希望を聞いている。テレビを見ている時「温泉に行きたい」等の思いを聞いている。毎年継続している干し柿づくりを今年も皆で行った。入浴の順番はその都度伺って支援している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話でご本人様に確認したり、面会時にご家族様から確認や話されたりする事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や生活リズムに応じた生活を送って頂いている。日常生活での残存機能の維持に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見も聞きとり、介護計画を作成している。6ヶ月に一度のカンファレンスを実施し必要に応じて見直しを行い、説明し了承を得ている。	担当職員の意見や入居者の状態を話し合い見直している。家族の「髪を染めてきれいにしたい」に、コロナ禍は、美容師に代わって職員が染めている。外出傾向の方に見守りと傾聴をプランに入れて支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌とは別に連絡ノートと情報共有ノートを活用し、気づきや変更事項等を記入し職員全体が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況や要望にて対応している。通院の付き添いや入退院の送迎・洗濯・物品の購入等必要に応じてご家族様の代わりに行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支え合い推進会議に出席したり、幼稚園や小学校の学校評議員を受けるなどして、地域資源等の把握に務めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力病院の受診希望があれば希望された病院を受診していただいている。月1回の定期受診、在宅診療所の往診を受けている方もいる。	殆どの入居者が協力医を受診し、訪問診療の方もいる。かかりつけ医受診に職員の支援がある。特養の看護師がインスリン注射や体調の相談に来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していない為、併設している特養看護師と連絡をとりながら協力して頂いている。インスリン注射に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	洗濯物を取りに行ったさいに状況を伺うようにしている。退院に向けての話し合いには職員同席させてもらい、指示等をもらうようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する説明は状況の変化に応じてその都度説明を行なっている。ご家族様の希望もできる範囲で受け入れ施設として出来る事出来ない事の説明を行なっている。	「重度化・終末期に関する方針」が明文化され、入居時に説明している。重度化の段階で医師が家族に説明し、ホームで出来る支援や看取りはしないことを伝え、医療介護の充実している施設への入居または医療機関への入院支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、連絡方法や対応について確認している。情報共有シートにて全職員が確認できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時に歩行か車椅子が分かるように表示している。居室入り口には顔写真を提示している。非常食の種類等を管理栄養士と相談しながら準備している。	年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。夜間想定訓練ではユニットの夜勤者や特養、ケアハウスの当直者が協力連携している。訓練時の反省や地域の防災ネットワーク支援を活用する等期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分かりやすい言葉を使い誘導している。居室の出入りにも配慮している。	名前か苗字に「さん」付けて呼び、食事は「ご飯だよー」と伝えている。居室の入室は承諾を得ている。トイレ誘導は耳元で誘い、失敗時は静かに居室へ誘い、衣服の汚れが見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択しやすいように声掛けや対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション活動の参加も本人に決めて頂き、誘導についても本人のペースに合わせて介助に入っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談しながら決めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、調理や盛り付けには入っていないが食事の前後の挨拶をして頂いている方はいる。誕生日には好きなメニューを取り入れるようにしている。	朝食のおかずとみそ汁の具は配食業者を利用し、昼と夕食は特養の栄養士の献立で職員が作る。月、木曜日は自由メニューではつと汁や五目ご飯等が喜ばれ、誕生会は寿司や天ぷら、スパゲッティが好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食形態に合わせて管理栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声掛けしながら自分で行なってもらい、介助が必要な方には職員が行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインを理解するように努め、誘導や支援につなげている。サインを知ることによって汚染を防ぐことが出来ている。	入居者がきよきよしたり、立ち上がりや体を揺らす等のサインを見逃さずトイレへ誘導している。食前や就寝前等定時の誘導を行い、日中は全員がトイレで排泄している。夜は巡回時にオムツ交換や誘導する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく、身体を動かしたり水分補給や乳製品やゼリーを勧めたりし対応している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時間は決まっているが、時間や希望を聞きながら支援している。拒否がある方に対しては声掛けを工夫したり時間を変えたりし対応している。	入浴は週2～3回を目標にしている。午前か午後に入るか聞き、肌を露出しないようにしている。2人介助で支援する方や気分よく歌を歌う方もいる。拒否の方は廊下で運動したり時間を置き、職員を変えて誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で過ごす方もいれば、娯楽室にて過ごす方もいる。ご本人様が過ごしたい場所で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルにまとめて誰でも確認出来る様にしている。変更があった場合は情報共有ノートを使用し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様から生活歴を聞きながら支援に活かしている。誕生会には本人に確認し、嗜好品を提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、買い物支援は出来ていない。ご家族様と短時間のドライブに出かけている方はいる。天気の良い日には玄関先や中庭へ散歩に出掛けている。	4月に花山ダム湖周辺の桜、一迫川の桜等を見学しながらドライブした。敷地内や近くの診療所へ行き、保育園児の遊びや声を聞く等、ホーム周囲の散歩を楽しんでいる。おやつ後のラジオ体操を日課にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫に預かっている。必要な物は担当職員が購入してきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおり、自由に利用されている。また、ご家族様から電話があった際にはご本人様にも代わり声が聞けるようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには写真や季節の物を飾っている。風や光を気に掛ける方がおり、カーテン開閉や換気に配慮している。	フロアは明るくゆったりしている。小上がりやソファを備え、見やすい位置に曆がある。テレビを見ながらお喋りしたり、仲良し同士で塗り絵や貼り絵をしている。入居者が不安な時、話しかけ入居者同士でフォローしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や共有スペース、縁側で1人で過ごしたりして頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家族の写真・仏壇・こたつ等を自由に持ち込みして頂いている。	エアコンや押し入れ、トイレ、洗面台が備えてある。使い慣れた筆筒やテレビ、人形、縫いぐるみ、厨子・お札等を持ち込んでいる。鏡台と向かい合う方や荷物の整理、広報誌を読む等自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札はあるが、それだけでは分からない方もおり、花やぬいぐるみ、顔写真を目印にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	グループホームうぐいすの里 こもれびの家	ユニット名	れんげ
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺には診療所・学校(小学校、幼稚園、保育所)・鶯沢総合支所があり、医療・教育・福祉が一歩化した環境になっている。縁側からは栗駒山や田園風景を眺めることができ、四季折々の風景を楽しむことができる。冬には渡り鳥が訪れ、田んぼにはマガンの群れや白鳥を見ることが出来る。最近ではコロナの影響によって交流会も中止が相次いでいる状況だが、近くの幼稚園、保育所から運動会の練習風景や小学校の太鼓の練習の音が聞こえてきたり、子供たちの元気な声が聞こえてくる等とても良い刺激となっている。また、塗り絵や貼り絵、制作活動に力を入れ利用者様が楽しく過ごせるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、東北自動車道築館ICから車で20分程の旧鶯沢町内の集落の一角にあり、広々とした田園地帯に隣接し自然環境に恵まれている。敷地内に法人の特養やケアハウスが併設されている。職員は入居者と笑顔で過ごし、「ご飯だよ」と家族的な雰囲気を作っている。診療所がすぐ近くにあり、散歩がてら受診出来、医療面で安心感がある。保育園や小学校との交流が続いており、園児や児童が来訪し歌や太鼓など披露している。目標達成計画の職員の身体拘束廃止に関する意識の向上は、勉強会の開催や身体拘束廃止委員会での振り返り、職員同士の話し合いが成されており達成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 うぐいすの里 こもれびの家)「ユニット名 れんげ」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を共有しながら年度始めにユニット目標を決めている。又、職員ハンドブックを活用し振り返りを行ったり自分なりの目標を考えたりしている。	法人の理念を基に、ユニット毎に目標を作っている。振り返りは年度初めに行っている。職員は笑顔で挨拶し入居者も笑顔で応え、会話の頻度が増えた。声がけする時は、肩をそっと叩くなどスキンシップしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事の中止もあつたりし参加できていないことが多かったが、地区の方々が施設内や周辺の除草作業へボランティアで来て頂き交流をはかった。	ホームの秋祭りに保育園児や小学校の児童が来訪し、歌や踊り太鼓等を披露し、入居者を楽しませた。ボランティアがホーム周りの雑草を刈っている。地域包括主催の地域推進委員会に管理者が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が家族が認知症になり、対応に困り相談に来られる事もあり支援の方法や助言を行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催は出来ておらず、資料配布のみとなっている。推進委員の方々から意見などを頂いているが返答の割合が低く、感染状況を見ながら対面での会議を検討している。	メンバーに会議資料を手渡しで届けている。年6回の書面開催となっている。意見や要望はFAXで貰っている。今年11月、4年ぶりに対面での会議を開いた。会議での活発な意見、活用を期待したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターから研修会の案内を頂いたり、運営推進会議のメンバーに入ってもらい施設の情報発信している。	市の担当者に介護保険認定更新の申請や外国人を職員採用し、住まいについて相談した。秋祭りに使う炊き出し用の鍋を借用した。地域包括主催の成年後見制度や身体拘束廃止の研修会に職員が参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠する事は無いが、夜間は防犯の為施錠している。又、不穏な方や歩行が不安定な方でも意思を尊重し、拘束にならないように付き添いの介護を提供できるよう情報を共有している。	毎月ユニット毎に虐待・身体拘束廃止委員会を開催している。「身体拘束の種類と範囲」をチェックリストで確認している。立ち上がりの不安定な入居者には、人感センサーやセンサーマットで転倒防止を図っている。外出傾向の方を見守りし、思いを傾聴している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の声掛けでも、聞く職員によっては不適切ではないかと思う時もありその都度話あつたり声掛けの工夫を行ったりしている。対応が難しい利用者様に対しては1人で対応が難しい時は複数人で対応したり1人の職員の負担にならない様になっている。	年1回勉強会を行い、毎月「高齢者虐待5つの行為」のチェックをしている。入居者へ向けて大声があつた際は、職員間で注意し合っている。管理者と年2回の面談をし、いつでも相談出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ過の為外部へ研修へ行く機会が減り、プリント配布等を行い周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際には専門用語を控え、なるべくわかりやすい言葉に変換し説明するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来られた際に、こちらからなるべく声を掛け家族様が気軽に話せる環境になるよう心掛けている。	入居者が種から育てたブドウが実ったと、家族が持参して皆で頂いた。入居者が昔編んだセーターを着せようと、持ってきてくれた。本人の実家を見せたいと、子供達が連れて行き、お墓参りをした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内巡視の際や契約更新の際に面談を設けたりし直接話を聞いて頂いたりしている。脱衣場の椅子にひじ掛けが無く危険だと言う意見が上がり直ぐに購入して頂いている。	職員は自由に意見を述べている。脱衣所の椅子を職員の要望で肘掛椅子に替えた。ホーム周りの草刈りやユニット間の通路整備、職員増等の要望がある。資格取得は法人が助成し、研修参加は勤務扱いである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行うなどし、職員の要望や悩みなどを聞いて頂き環境の改善をして頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やリーダー研修等定期的に法人内で行っている。施設外への研修はコロナの関係で以前より減ってしまっている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内にあるグループホームと意見の交換や情報共有等を必要に応じて行っている。	栗原市立栗原中央病院主催の感染症予防や薬の服用等の研修会に参加している。地域包括の研修会や懇談会が再開した。法人内の研修会等で職員同士がコロナ感染対応や職員の補充など、情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談や話を聞く機会を設け不安なく利用を開始できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階でも不安な事や望むことなどを聞きながら相談にのっているが、入所の契約の際にも再度聞き取りを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際に家族様にお話を聞きながら今後の支援の方向を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔なじみの関係が出来、休み明けには「しばらく見なかった」と声を掛けられたり、涙ぐむこともある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当職員から家族様へ、生活の様子や体調面に関して手紙で報告している。2か月に1回広報を作成し同じく家族様へ配布している。又、年末には利用者様と担当職員で年賀はがきを作成し家族様へ出している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域外から入居されている方も多く、馴染みの関係が薄い。地域の床屋さん定期的に来て頂き関係性を続けている。	家族や友人の他、昔すし屋と一緒に働いた弟子が面会に来ている。近所の店の方が菓子類を毎週移動販売に来て、入居者が喜んで買い求めている。近所の床屋が入居者の希望に応じて来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解し席を配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族様から衣類の提供や、タオルの寄付があったりと交流が続いている方もいる。又、退所後についての相談も随時相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を聞きながら、その時々で確認するようにしている。	普段の会話の中で入居者の思いや希望を聞いている。テレビを見ている時「温泉に行きたい」等の思いを聞いている。毎年継続している干し柿づくりを今年も皆で行った。入浴の順番はその都度伺って支援している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーに確認したり、家族様に確認したりし変わらぬ生活を継続できるよう話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事を奪ってしまうことなく、時間が掛かっても「待つ」介護を心掛けている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1度見直しを行うが、その間にもカンファレンスの際に気付いた事や改善点などの話も行っている。以前利用していた施設で入浴拒否があった方でも現在は1日置きに入浴出来、家族様にも喜ばれた事があった。	担当職員の意見や入居者の状態を話し合い見直している。家族の「髪を染めてきれいにして欲しい」に、コロナ禍は、美容師に代わって職員が染めている。外出傾向の方に見守りと傾聴をプランに入れて支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録の他に、連絡ノートや情報共有ノートなどを活用し、利用者様の変化や気づき、ケア内容の変更などを職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況に応じて通院の付き添いや、主治医への情報提供(日頃の様子を記した手紙)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流会の中止などで地域とかかわる事が以前より減ってしまった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から通院している病院へ、入所後も通院されている。又家族のみが通院介助される際も日常の様子や気になった点を報告し医師へ伝えて頂いている。	殆どの入居者が協力医を受診し、訪問診療の方もいる。かかりつけ医受診に職員の支援がある。特養の看護師がインスリン注射や体調の相談に来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急の時や判断に困った時には協力を頂いている。又、診療所の看護師の方にも受診に困った際には相談に乗って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の意見や考えも尊重しながら連携室相談員の方と退院後について話し合う機会を設けて頂いている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状態の変化に応じて家族様と話し合いを持ちながら、施設で出来る事出来ない事を納得頂いている。又、病院の連携室の方からも入院中の情報や医師との話し合いに同席出来る様配慮いただいている。	「重度化・終末期に関する方針」が明文化され、入居時に説明している。重度化の段階で医師が家族に説明し、ホームで出来る支援や看取りはしないことを伝え、医療介護の充実している施設への入居または医療機関への入院支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを日中用と夜間用で作成しフローチャートにしている。又、両ユニットの利用者様の一人一人の情報をまとめたファイルを用意し、随時更新しながら全職員が確認できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	居室入口に避難誘導の際の方法が掲示されており、外部から協力に来て分かるようにしている。但し、避難訓練に地域の方の参加が無かった為今後声掛けや協力をお願いしていきたい。	年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。夜間想定訓練ではユニットの夜勤者や特養、ケアハウスの当直者が協力連携している。訓練時の反省や地域の防災ネットワーク支援を活用する等期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの際に「～して下さい」等の命令的な声掛けにならないよう注意している。入浴が嫌いな方には散歩に誘い、廊下を運動した後に入浴に誘っている。	名前か苗字に「さん」付けて呼び、食事は「ご飯だよー」と伝えている。居室の入室は承諾を得ている。トイレ誘導は耳元で誘い、失敗時は静かに居室へ誘い、衣服の汚れが見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつの種類を選んだり着替えの際に衣類を選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと居室で休む時間を設けたり、縁側で日向ぼっこをしたり思い思いに過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や毛染め、身だしなみに気にかされる方が多く担当職員や職員側で対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会などで本人様の好みを聞いてメニューに取り入れたりしている。食事前の準備ではテーブル拭きを手伝ってもらったり、食後に食器拭きを手伝って頂いたりしている。	朝食のおかずとみそ汁の具は配食業者を利用し、昼と夕食は特養の栄養士の献立で職員が作る。月、木曜日は自由メニューではつと汁や五目ご飯等が喜ばれ、誕生会は寿司や天ぷら、スパゲッティが好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を好まない方もおり、栄養士と相談しながら水分補給ドリンクやゼリーなど選べるようにしている。来客用のコップなどを使用し変化をつける事で摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが嫌いな方もおり、うがい薬を用いたうがいなどを行い個別に対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行きたい時のサインを職員が気づき、誘導することで失敗を減らしている。誘導の声掛けの時間をその方の排泄パターンに合わせて時間を変えている。	入居者がきよろきよろしたり、立ち上がりや体を揺らす等のサインを見逃さずトイレへ誘導している。食前や就寝前等定時の誘導を行い、日中は全員がトイレで排泄している。夜は巡回時にオムツ交換や誘導する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が少ない方へは水分補給用の水分を用意したり、水分を好まない方へはゼリーを用意したりと個人の好みで対応できるよう工夫している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ユニット職員の人員の関係で時間帯は協力いただいている部分もあるが、入浴時間を午前がいいか午後がいいか等本人様に確認したりしながら極力行うようにしている。	入浴は週2～3回を目標にしている。午前か午後に入るか聞き、肌を露出しないようにしている。2人介助で支援する方や気分よく歌を歌う方もいる。拒否の方は廊下で運動したり時間を置き、職員を変えて誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活パターンを生かし、就床時間を個人に合わせて夜間ゆっくり眠れるようになった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書はファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。変更があった際には共有ノートを利用し情報を共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会には本人に確認しながら出来るだけ食べたいものを提供できるようにしている。踊りの好きな方が活躍できるようさりげなく話題を提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為買い物や外食などの外出支援が出来ていない。但し、4月に久しぶりに花見ドライブへ出掛け利用者様の色々な表情を見ることが出来た。職員体制で散歩が難しい日はデッキに出て一緒に日向ぼっこをしたりしている。	4月に花山ダム湖周辺の桜、一迫川の桜等を見学しながらドライブした。敷地内や近くの診療所へ行き、保育園児の遊びや声を聞く等、ホーム周囲の散歩を楽しんでいる。おやつ後のラジオ体操を日課にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望で財布を持っている方や、家族様の希望で持っている方などがある。いずれも家族様と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末に家族様宛に担当職員と一緒に本人から年賀状を出している。又、家族様から電話があった際は会話できるよう配慮している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作成した作品を飾ったり、思い出の写真や飾り出し生活感を出している。又、換気する窓の位置や時間を工夫し、不快にならないよう配慮している。	フロアは明るくゆったりしている。小上がりやソファを備え、見やすい位置に曆がある。テレビを見ながらお喋りしたり、仲良し同士で塗り絵や貼り絵をしている。入居者が不安な時、話しかけ入居者同士でフォローしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席の他にソファを設置したり思い思いの場所でくつろげるよう工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやソファを持参されたり、本人様が寂しがるのでとの事で、ぬいぐるみを持参されたりしている。	エアコンや押し入れ、トイレ、洗面台が備えてある。使い慣れた筆筒やテレビ、人形、縫いぐるみ、扇子・お札等を持ち込んでいる。鏡台と向かい合う方や荷物の整理、広報誌を読む等自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの足りない部分を工夫し、一人で歩けるよう環境作りを試みた。		